大型鋼材リサイクル拠点

平林金属　鳥取・境港に新工場完成

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）が鳥取県境港市に整備していた新工場が完成し、24日に竣工式が行われた。建築用鋼材などを再資源化するため、ガスバーナーによる手作業で切断する「ガス溶断」に特化した同社初の施設。港に面した立地を生かし、専門技術者が不足している北海道や東北といった日本海沿岸地域から船で大量かつ大型の鋼材を受け入れる。投資額は約7億5千万円。（橋本直樹）

竣工式で実演されたガスバーナーによる切断作業＝鳥取県境港市

昭和町工業団地（同市昭和町）の自社所有地約1万6600平方㍍に作業場（500平方㍍）、重機解体場（100平方㍍）、事務所（鉄骨平屋約150平方㍍）を設けた。ガスバーナーを使って大型鋼材を切り分ける作業場には、暑熱対策として屋根を備えて職場環境を整えた。敷地の多くは鋼材の置き場に充てる。従業員は約10人で操業し、将来の増員も検討する。

24日から操業を始めた新工場

専門技術者　手作業で切断

工作機械や厚みのある建築用鋼材は、シュレッダーやプレス機といった機械での破砕が難しく、ガス溶断して再資源化する。しかし人手不足や高齢化で全国的に専門の資格者が減少傾向にある。平林金属はグループ全体で資格者を176人抱えており、受け入れ依頼が増加。人材の強みを生かし、国が指定するリサイクルポート（総合静脈物流拠点港）の境港で廃鋼材を調達することにした。鉄や各種金属に分別した後、再び船を使って製鉄、鋼材メーカーへ販売する。

ガス溶断に対応できる施設はほかに、港工場（岡山市中区新築港）や山陰工場（鳥取県米子市旗ケ崎）など4拠点ある。処理量はここ数年増加傾向で2024、25年はいずれも計約3万3千㌧。新工場は年間1万2千㌧を目標とし、技術者の養成拠点としても活用する。

現地での竣工式で、平林実社長は「プロでも処理が難しい大型廃材用の拠点として鉄のリサイクルの推進につなげたい」と話した。

平林金属は1956年創業、60年設立、資本金9980万円、グループの売上高283億円（2025年12月期）、従業員558人。

2026年6月25日　山陽新聞朝刊